

箕面市立病院

MITOHO
LIFE
PLAZA

新病院の整備に向けた検討

箕面市立病院
リハビリテーションセンター

総合保健福祉センター
医療保健センター
老人保健施設

各駐車場満空状況

第1P
第2P
第3P

目次

第1章 豊能医療圏の状況

第2章 新病院整備に向けた検討状況

第1節 移転建替えに向けた経過

第2節 市立病院の経営状況

第3節 検討の方向性と今後の進め方

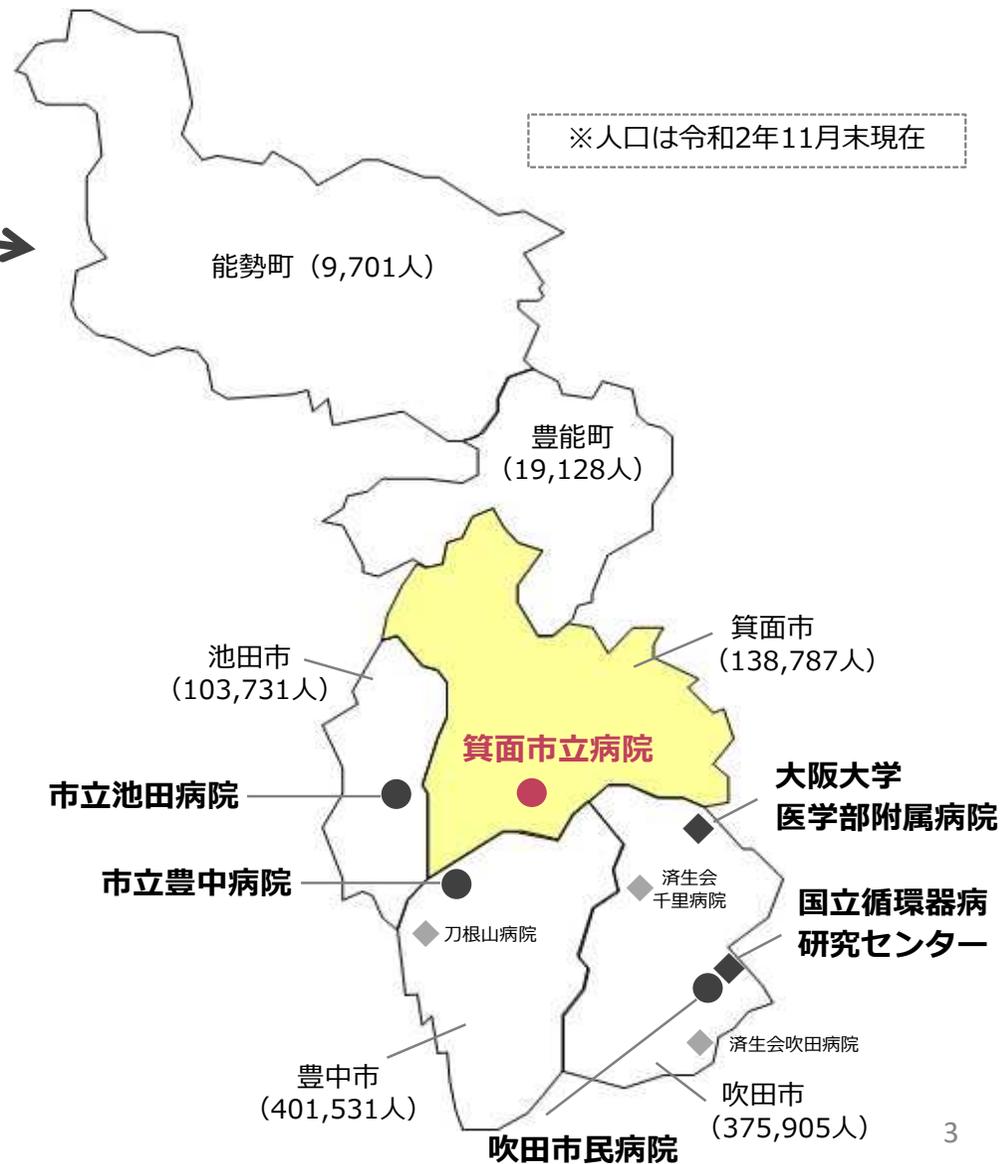
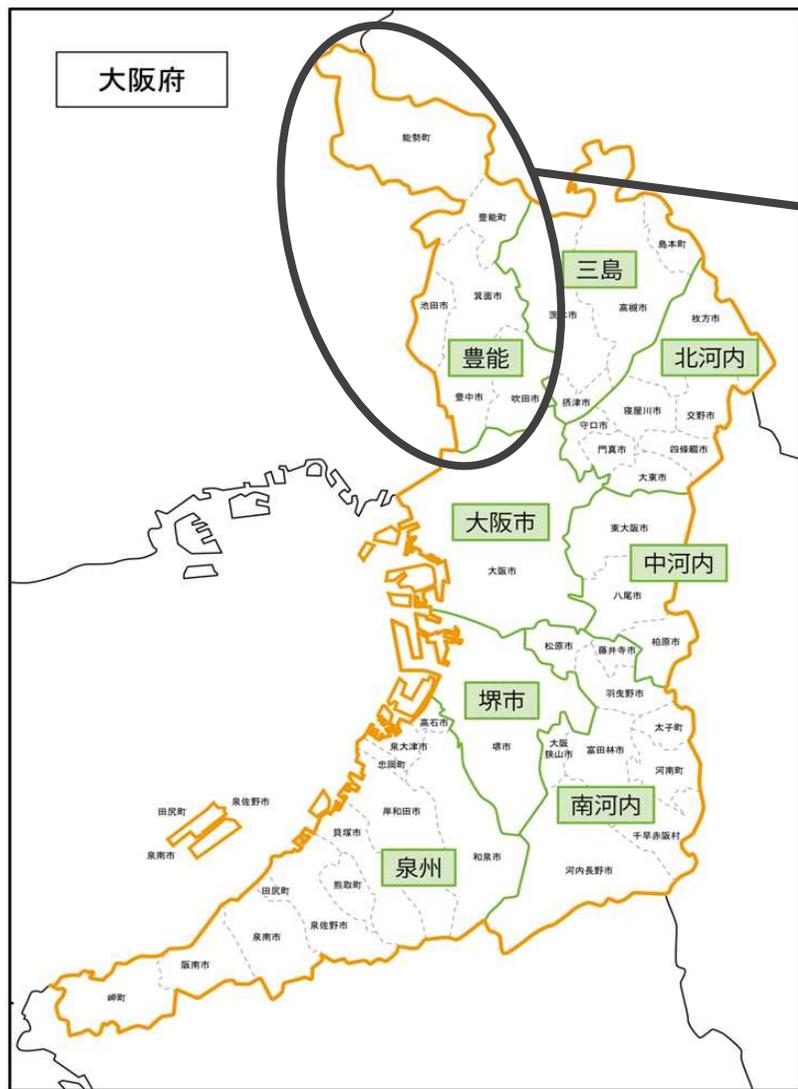


第1章

豊能医療圏の状況

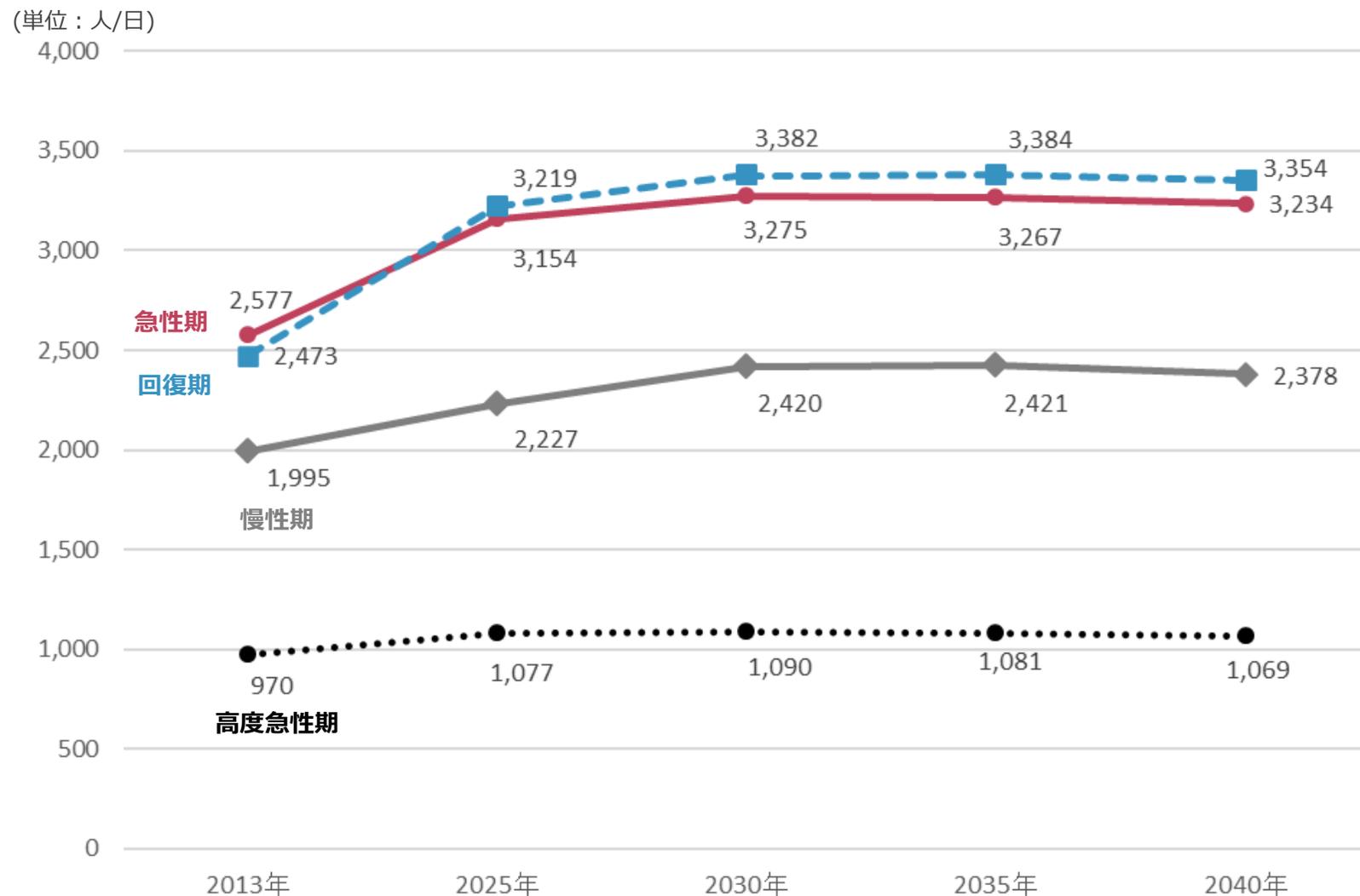
豊能医療圏の状況

豊能医療圏は4市2町からなる地域医療構想の構想区域で、総人口約100万人の大都市圏です。大阪大学医学部附属病院、国立循環器病研究センターや、当院を含む公立病院4施設など、国公立及び公的な大規模病院が多く存在しているのが特徴です。



豊能医療圏の今後の医療需要

豊能医療圏では、今後、2030年をピークに、医療需要（特に急性期と回復期）が増加する見込みです。



参照：2020年度 豊能二次医療圏「地域医療構想」現状と今後の方向性(大阪府資料)

2025年の必要病床数

地域医療構想では、将来人口推計をもとに2025年（令和7年）に必要な病床数を、医療機能ごとに推計しています。豊能医療圏の各医療機関から報告された2025年の予定病床数と、医療需要から導いた必要病床数を比較すると下表のとおりとなり、回復期病床が大きく不足する状況です。

病床機能	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床等	合計
報告病床数 (平成30年度現在)	1,794	4,135	1,055	2,121	74	9,179
2025年必要病床数 (A)	1,436	4,044	3,577	2,421	0	11,478
2025年予定病床数 (B) (平成30年度時点での予定)	1,794	4,014	1,275	2,048	0	9,131
過不足 (B-A)	358	△30	△2,302	△373	0	△2,347

不足

<参考>

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床等	合計
箕面市立病院 (現在)	13	254	50	0	0	317



第2章

新病院整備に向けた検討状況

第1節 移転建替えに向けた経過

移転建替えに向けた経過

- ◆ 箕面市立病院リニューアル調査検討報告書（平成29年7月）
 - ・ 現病院の老朽化が深刻であり、早期に抜本的な対策が必要
 - ・ その選択肢として、「現地での大規模改修」、「現地建替え」、「移転建替え」を比較検討
 - ・ 移転建替えの候補地として、敷地要件、市内全域からの救急搬送時間等の条件から「COM1号館跡地」を選定
 - ・ コスト評価から「現地での大規模改修を選択する理由がない」とされた一方、現地建替え、COM1号館跡地への移転建替えについては、コスト評価及びアクセス性等の定性評価の両面において「どちらも病院の立地として相応しく、両案に客観的な優劣はない」との結論

- ◆ 箕面市政策決定会議（平成29年11月）
 - ・ 上記報告書の結果や、箕面市議会定例会（平成29年9月）の議論等を踏まえ、建替え場所をCOM1号館跡地とすることを政策決定
 - ・ 理由は、新駅（箕面船場阪大前駅）から近く、患者の利便性の向上や市内外からの患者増加が期待できること、国道423号線に面しており、災害時の患者搬送がスムーズにできることなど

- ◆ 箕面市議会定例会に関係議案を提出（平成29年12月）
 - ・ 令和6年12月までにCOM1号館跡地へ移転建替えすることを規定する「箕面市病院事業の設置等に関する条例改正案」を提出
 - ・ COM1号館跡地の取得に関する補正予算案を提出

⇒いずれも可決され、移転建替えが正式決定
(ただし、現時点では、北大阪急行線延伸・開業の遅れの影響により、令和7年度中の新病院開院を想定)

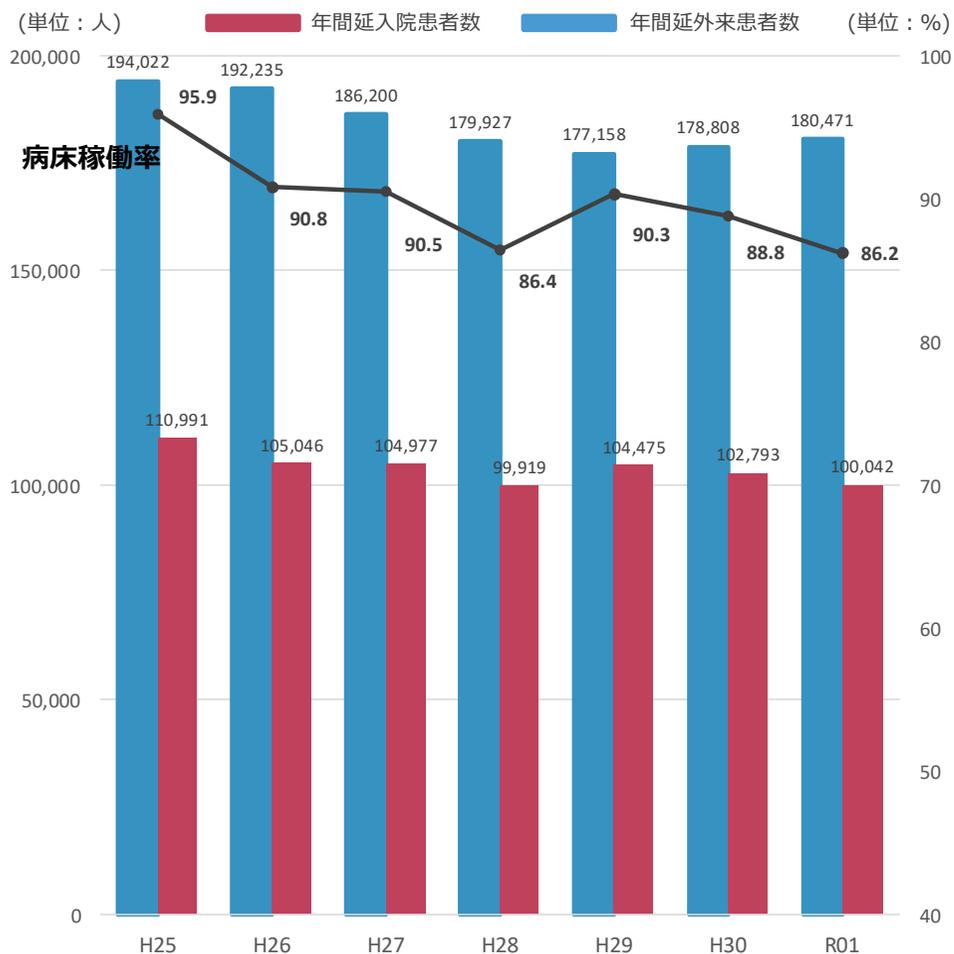
- ◆ 箕面市議会定例会（令和2年9月）
 - ・ 市立病院の経営状況（後述）を受けて、上島新市長の所信表明において、「病院経営の最適化と市立病院として担うべき役割をゼロベースで追求する」として、市立病院の整備・運営の見直しについて言及

第2節 市立病院の経営状況

患者獲得・病床稼働の状況

当院は平成28年度から一般会計からの繰入れを廃止し、独立採算による運営をめざしてきました。平成30年度に策定した「第三次箕面市病院改革プラン」では、手術や検査を充実させ、入院・外来患者の獲得による収益向上を計画していましたが、単年度黒字を達成した平成25年度からの推移をみると、外来患者数・入院患者数・病床稼働率ともに減少傾向で、入院収益については計画値を達成できていない状況です。

入院・外来患者数と病床稼働率



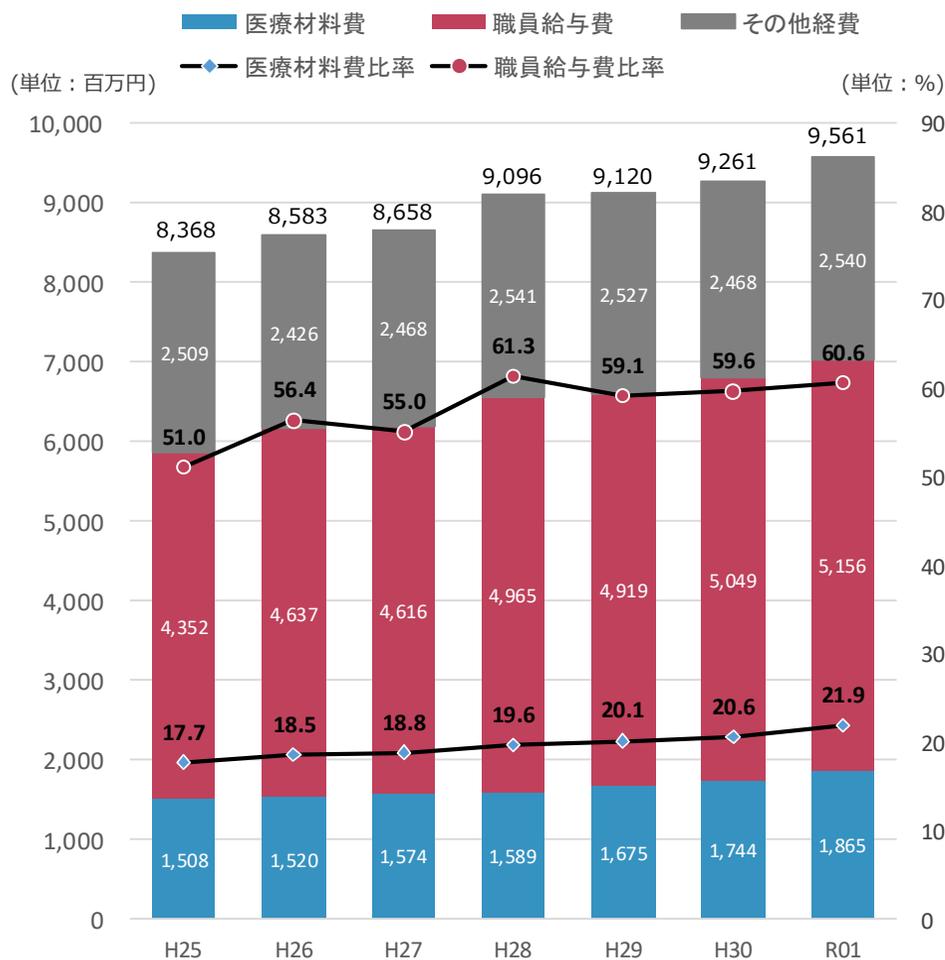
入院・外来収益の推移



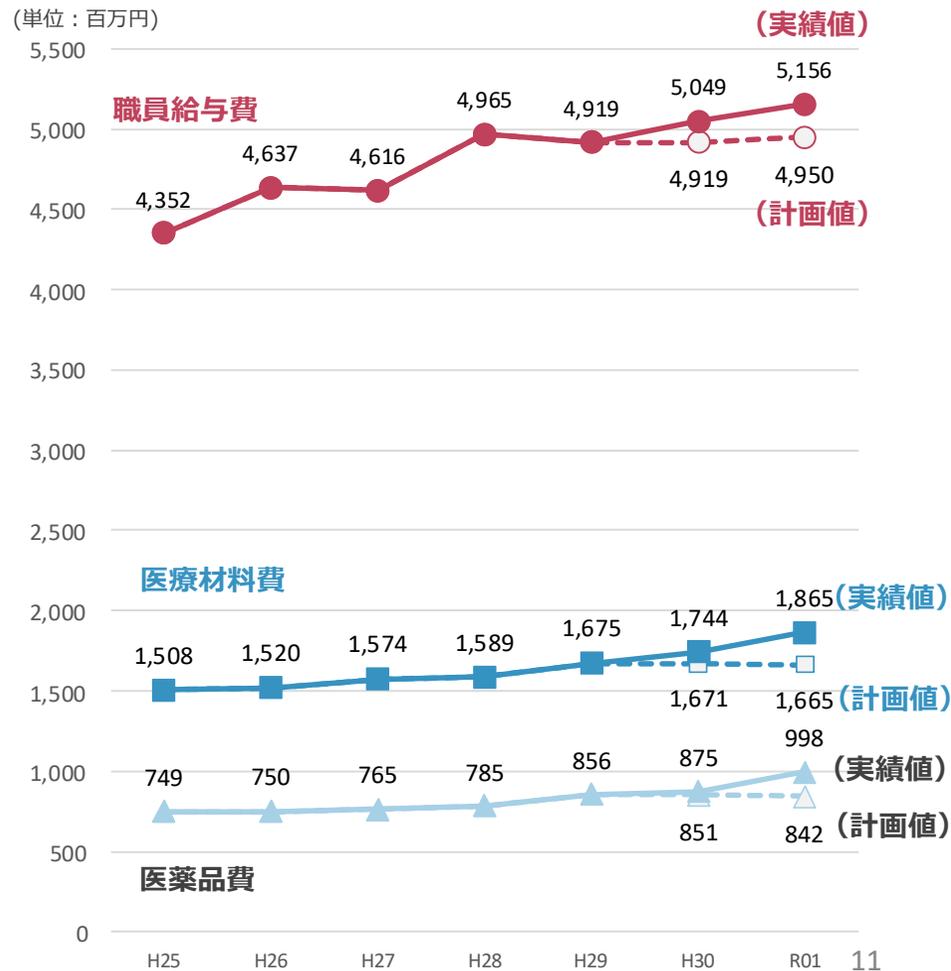
医業費用の構造と推移

「第三次算面市立病院改革プラン」では、診療材料の調達方法の工夫や、ジェネリック医薬品の採用等によるコスト削減を計画していましたが、計画値を達成できておらず、職員給与費も含めた医業費用は、全体として増加しています。また、医業収益に対して医療材料費や職員給与費が占める比率をみると、いずれも増加しています。

医業費用の推移と内訳



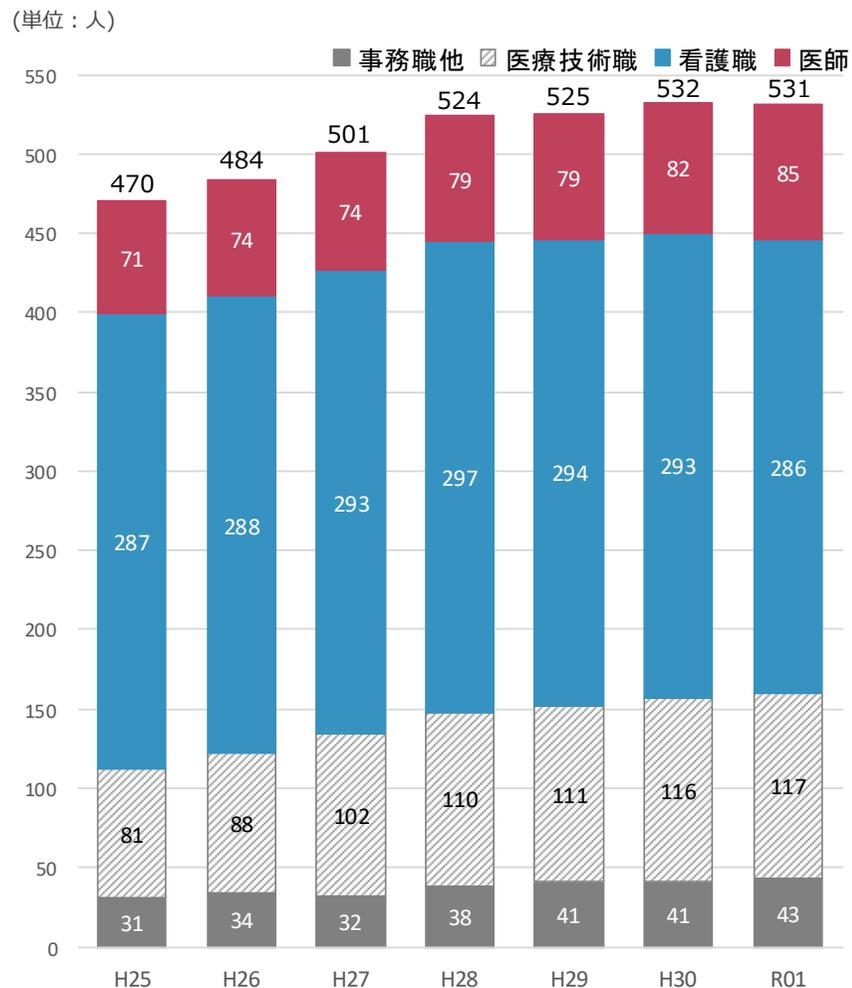
第三次プランとの乖離



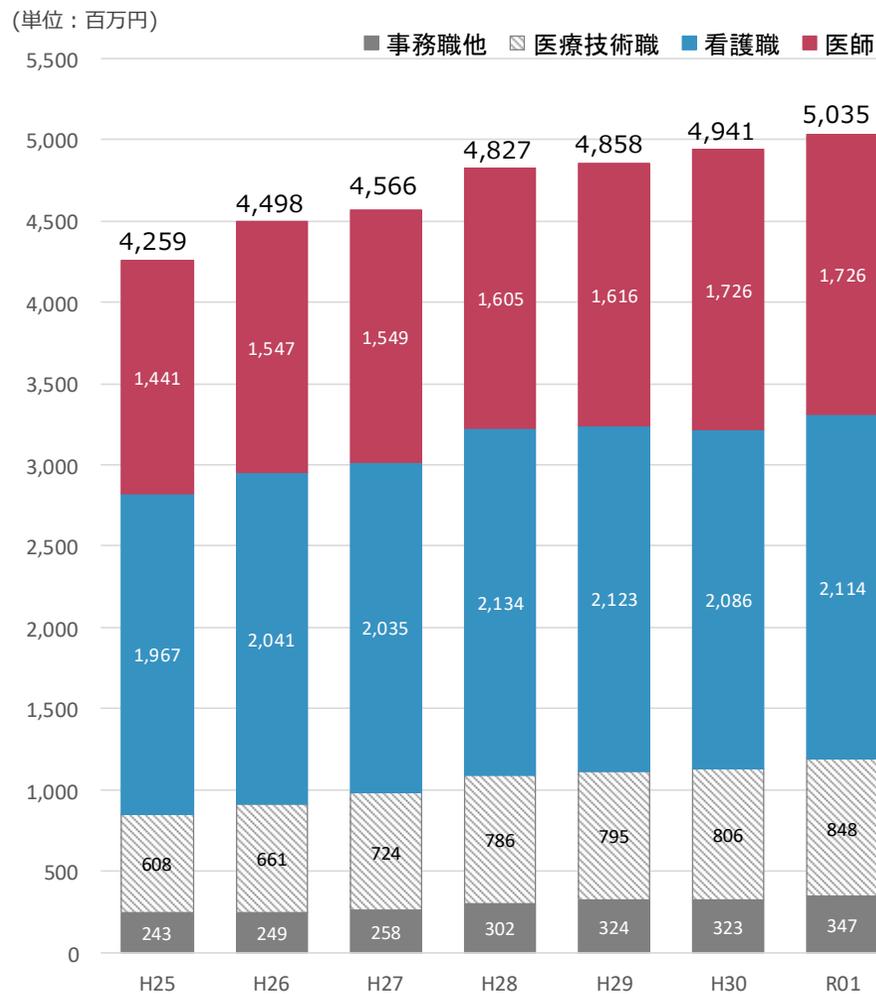
職種別の職員数と職員給与費の推移

当院では、医師85名、看護職286名、医療技術職117名、事務職他43名、合計531名体制で業務を行っています（令和元年4月現在・常勤職員数）。職種別の職員給与費の推移を見ると、全職種で増加しています。

職員数(※常勤職員数)の推移と内訳



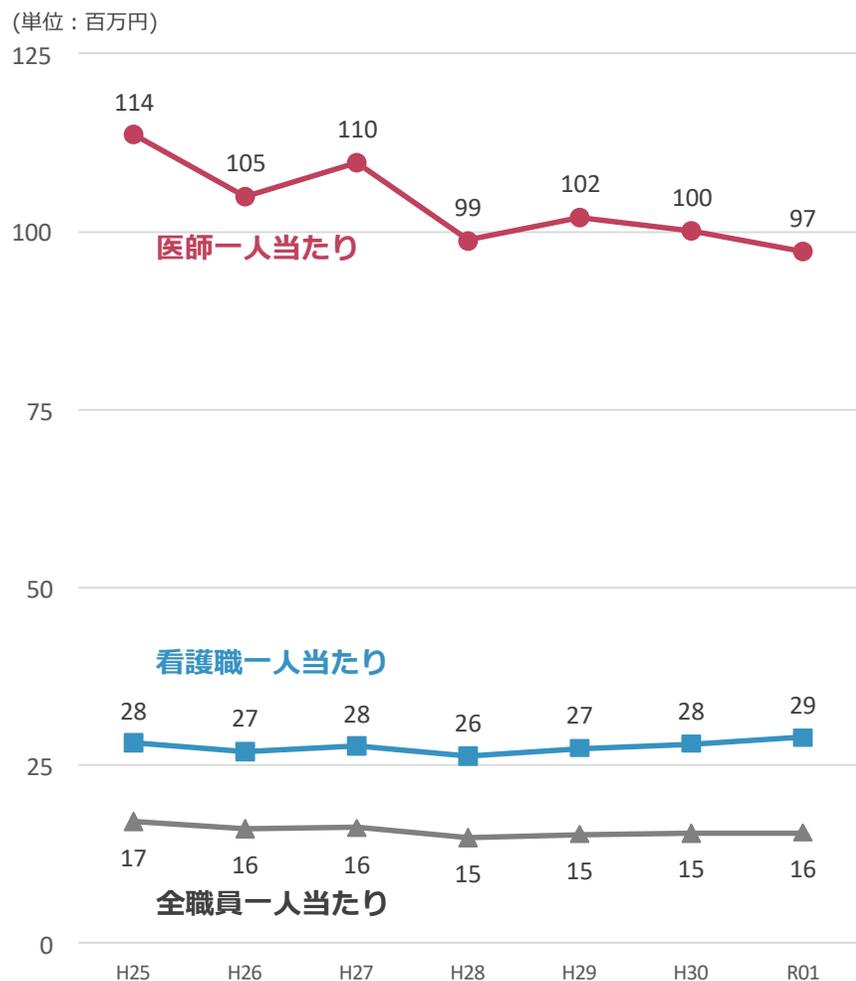
職員給与費(※退職引当金除く)の推移と内訳



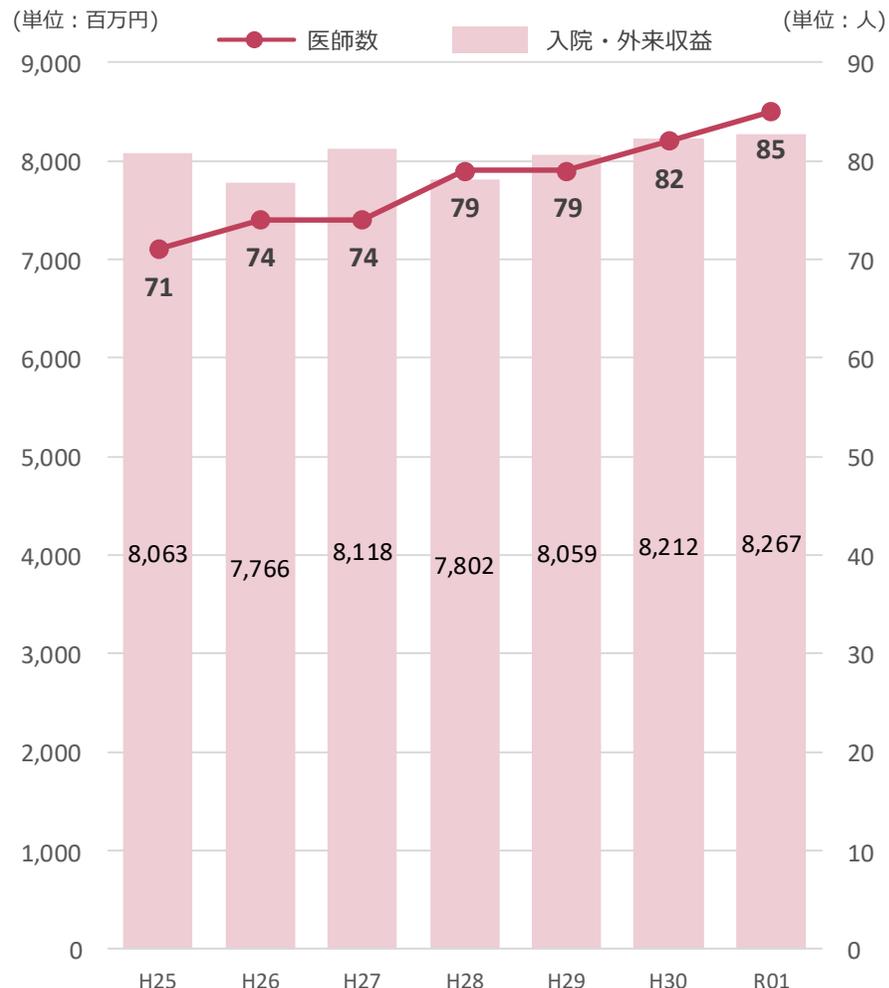
職員給与費と収益の関係

職員一人当たりの入院・外来収益を見ると、医師一人当たりの収益が特に減少しています。医師数の増加に対し、入院・外来収益が伸びておらず、投入した人件費に見合った収益を確保できていないのが現状です。

一人当たりの入院・外来収益

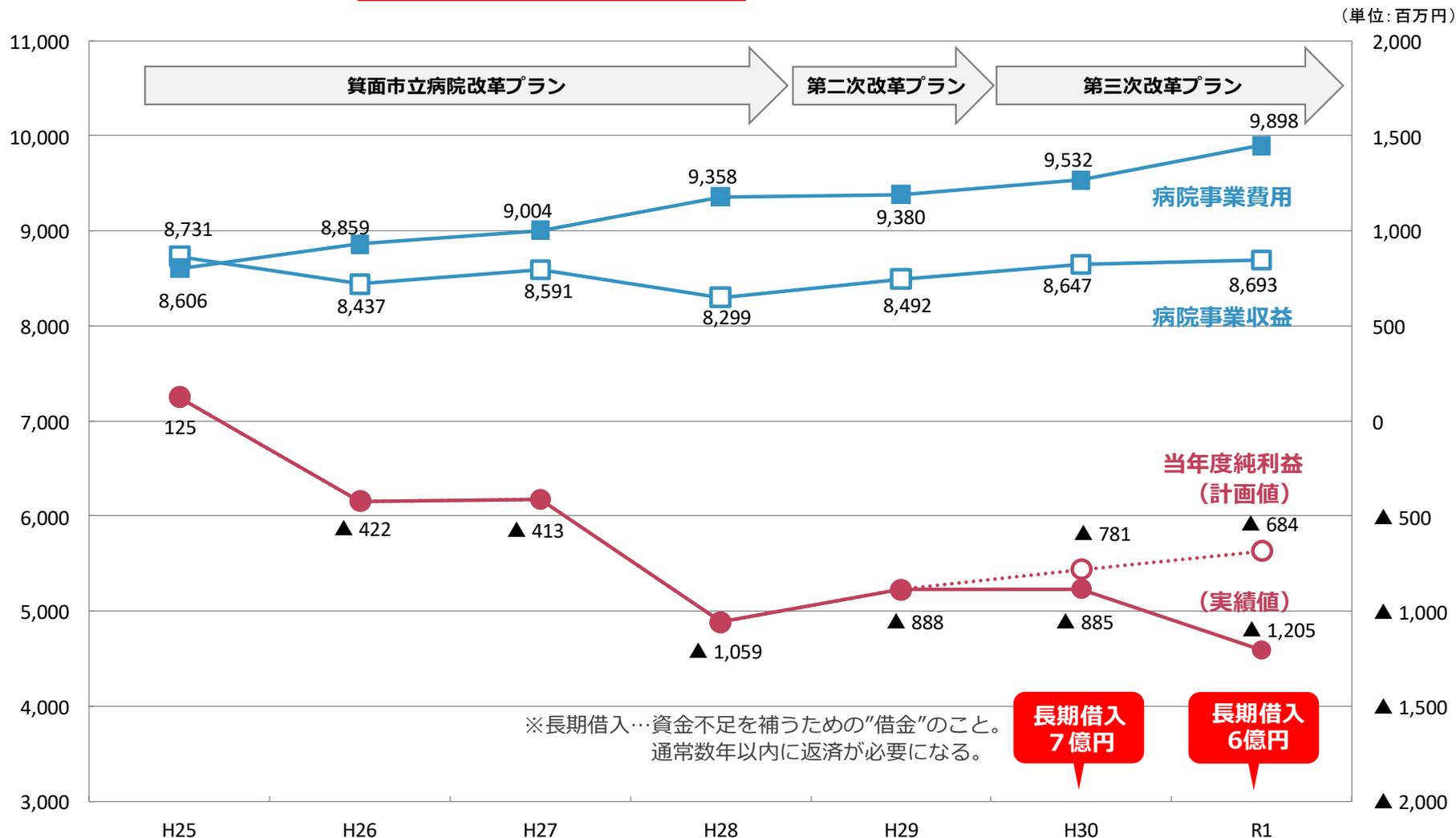


医師数と入院・外来収益の関係



経営状況の推移（まとめ）

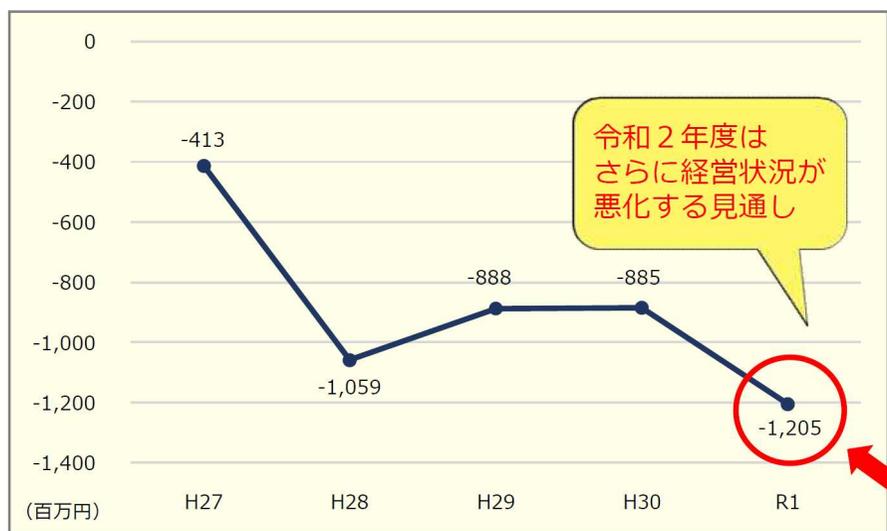
平成30年度からは資金不足が発生し、2年連続で長期借入（いわゆる“借金”）を行っています。その結果、令和元年度決算において、**長期借入の残高は13億円、累積赤字は117.5億円**となっています。現状の経営を続けていては、“借金”が増える一方で、その返済ができません。返済ができないということは、**病院そのものが存続できない**ということを意味します。



新病院の整備・運営の見直し

令和2年12月の「(仮称)箕面市新改革プラン(素案)」において、現在の経営状況のままでは、病院が整備費用を捻出することは困難であり、市の負担額が増加する可能性があるとして、新病院の整備・運営については、“見直し”とされています。

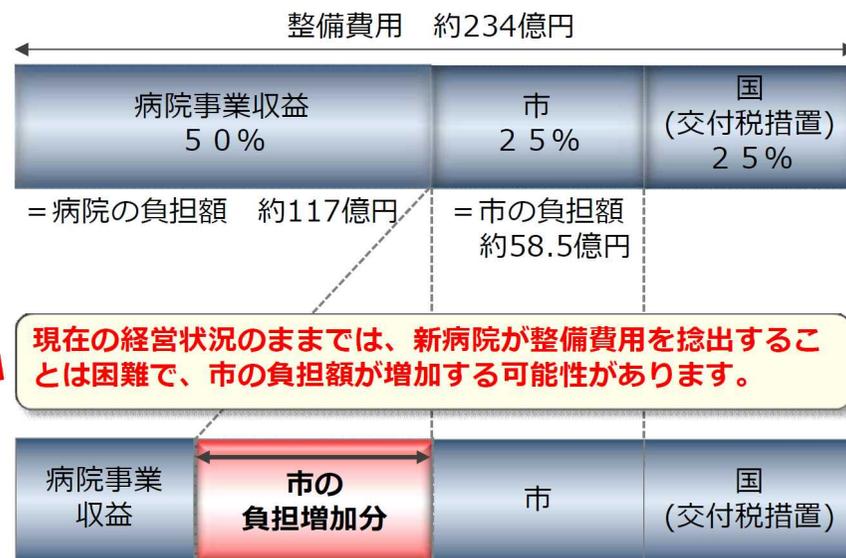
1 市立病院の経営状況(純利益)



- 平成30年度には約9億円、令和元年度には約12億円の単年度赤字となっています。
- 平成30年度から資金不足に対応するため、13億円を競艇事業会計から長期借入れています。
- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、さらに経営状況が悪化する見通しです。

2 整備費用の想定と市の負担

- 箕面市立病院リニューアル調査検討報告書(平成29年度)において、新病院の整備費用は約234億円と試算しています(※)。



* (仮称)箕面市新改革プラン(素案) 補足資料より抜粋

これまでのとおり、市立病院の経営は危機的な状況であり、
このまま何も手立てを講じなければ、新病院の整備ができません。

第3節 検討の方向性と今後の進め方

ゼロベースでの検討

一方で、現病院の老朽化に対応し、質の高い医療を提供し続けるためには、移転建替えは必須です。さらに、新病院は、船場という立地を生かして、様々な医療・健康サービスと有機的に連携しながら、地域医療の中核を担っていく必要があります。この大きな目標を達成するため、これまでの前提をいったん“ゼロ”にし、抜本的な経営改善と、新病院の整備の検討を両輪で進めていきます。検討する観点は主に以下の3つです。

1



新病院が担うべき役割・機能

今後の医療需要や、豊能医療圏の医療供給状況を踏まえ、地域の医療インフラの中核として新病院が果たすべき役割や医療機能を検討します。

2



運営主体・運営手法

現在のように市直営で運営する場合、経営の健全化が最大の課題であることから、経営改革に向けた検討を行います。また、市直営以外の運営手法として、独立行政法人化や指定管理者制度の導入、民間への事業譲渡等の可能性について検討します。

3



整備手法

建物（ハード）をどのように整備するか検討します。例えば、工期短縮やコスト削減を図るDB方式や、管理運営コストの削減につながるPFI方式等の手法が考えられます。



まずは、「①新病院が担うべき役割・機能」と「②運営主体・運営手法」について検討を進めていきます。

新病院のあり方検討

これまでは、現在の病院機能や規模を前提としてデータ収集・分析を行ってきましたが、これらのデータを時点修正しつつ、「新病院が担う役割・機能」と「運営主体・運営手法」について分析を深めていきます。

- ◆ 「新病院あり方検討支援業務委託」（令和2年12月～令和3年3月末）
 - ・ 新病院に求められる機能や規模の検討
 - ・ 新病院の採算性の検証→当院が今後講じうる経営改善策及びその効果額を踏まえた詳細な収支シミュレーションを行う
 - ・ 収支シミュレーション結果をもとに、新病院の経営課題について整理

- ◆ 新病院の運営手法の検討に係る業務委託（令和3年4月以降）
 - ・ 新病院の経営課題を解決する手法として、一定の経営改善を前提として「市直営」、「独立行政法人化」、「指定管理者制度への移行」、「民間への事業譲渡」などの可能性を検討

- ◆ 新病院基本計画、基本設計等（令和3年度後半以降）
 - ・ 新病院のハード整備に係る検討

開院までのスケジュール

検討の進捗に応じて、「新市立病院整備審議会」を開催し、議論いただきます。
令和7年度中の開院に向けて、まずは、今年度～令和3年度にかけて新病院のあり方の検討を進めていきます。

	令和2年度	令和3年度	令和7年度
新病院あり方 検討支援業務委託 (役割・機能の検討)	●→ ■ 審議会 (第1回は2/11、第2回は4/3)			
新病院の 運営手法の検討		●→ ■ 審議会 (3回程度予定)		
整備手法等の検討			●→	
工事				●.....→ ★ 開院

※工事の実施時期及び期間は現時点で未定